

消化管の拡大内視鏡は粘膜表面を 100 倍レベル(超拡大内視鏡では 500 倍レベル)まで拡大観察することが可能であり、ごく表層に限られはするが顕微鏡を用いた病理組織像に近いあるいは同等の画像を得ることができる。しかしわが国における大腸用拡大内視鏡普及率は 40% 程度とされ半数も超えていないのが実状である。本号の企画担当委員(山野、三澤、鶴田)はこの原因を、①シャフトの太さ・硬さによる難挿入性、②拡大観察による検査時間の増長、③拡大内視鏡分類の理解・習得の難しさ、④指導者不足、などと考えた。これらの問題点を解決するために必要と思われる項目について拡大内視鏡を極めた専門医に解説していただくことで読者の拡大内視鏡に対する理解を深め、拡大内視鏡検査がより一般化し臨床に貢献することを目的として本号は企画された。

内容は、①スコープを細径と太径に分けた挿入性の違い(坂本論文)、②拡大観察時間短縮に必要なこと(松下論文、三澤論文、田中論文)、③拡大内視鏡分類(藤井論文、井上論文、山野論文、森論文)、①から③以外に拡大内視鏡の歴史(工藤 序説)、光源の違い(新村論文)、観察条件(榎本論文)、非拡大観察の意義と限界(安藤 コラム)などとなっている。

本号により大腸拡大内視鏡診断への理解が深まり、拡大内視鏡を用いて患者にとってより好ましい診断、治療が一般的に行われるようになることを望むばかりである。

最後に私見であるが「非拡大観察・診断、拡大観察・診断いずれも 1 対 1(内視鏡所見、切除標本所見、病理組織所見)の対応が基本であり(河野論文)、この積み重ねが診断学、診断能力を向上させる」と確信している。

鶴田 修(聖マリア病院消化器内科)

INTESTINE

Vol.24 No.4

©2020 年 11 月 20 日発行

定価(本体 3,200 円 + 税)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

・ Published by Nihon Medical Center, Inc.

© 2020, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

編集 『INTESTINE』編集委員会

発行人 増永 和也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64(協和ビル)

営業直通電話(03)3291-3901(代)FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代)FAX(03)3291-3377

e-mail intestine@nmckk.co.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541